

永 年 会 員 表 彰

7月22日開催のグループわ 設立20周年記念式典で15年以上継続加入の方59名に、永年会員表彰を行いました。代表して福原克巳（福1）さんに水町理事長より表彰状と記念品を授与しました。

授賞式に参加された方からは、『予想していなかったことでとても喜んでいます』『今日の晴れ舞台、何を着ていこうかしらと悩み？』多くの方から喜びの声が聞かれました



表彰式に参加された方の記念写真

木原 愛子（福1）	胤艸 武宏（福1）	津田 彰子（福1）	中川 朝（福1）	福原 克巳（福1）	杉田 泰子（国1）
児玉 浄（生1）	大野佐希子（音1）	荻原 允子（音1）	近森八重子（音1）	門脇 淳子（福2）	福島 弘美（国2）
五味登美子（生2）	泉田 政子（音2）	河野 智美（音2）	宮城 智子（音2）	空閑 義郎（福3）	桑原サト子（福3）
平尾 順子（福3）	細野 恵久（福3）	加藤 悦子（福3）	河合 ふつ（福3）	井上佳奈子（国3）	田尾多恵子（国3）
新田 昌明（国3）	山根 義男（国3）	吉岡乃夫子（国3）	尾末 幸子（生3）	坪井 幸子（生3）	永井 経子（生3）
梶田みどり（生3）	住田 暉江（食3）	鍵本 慶子（福4）	濱岡 吉孝（福4）	横山 忠明（福4）	太田 洋子（国4）
豊田 實（生4）	西向 弘光（生4）	江田 正子（音4）	宮本奈保子（音4）	大月 康董（国4）	淡路 忠義（福5）
井関 一三（福5）	藤原 滋一（福5）	浅野 禮子（国5）	栗本 隆雄（国5）	中村 吉宏（国5）	足立 幸夫（生5）
前田 羌（生5）	常信 久子（音5）	濱谷 倫子（音5）	深川久美子（音5）	田中 剛（国5）	井上 善道（食5）
入谷 清弘（食5）	裏地 彦允（食5）	玉田 久子（食5）	飯井 冴子（一般）	橘野 美子（一般）	

有志の皆さんによる誌上座談会

①カレッジ入学の動機は？

濱岡さん 須磨区役所でKSCの入学案内を見て『再び学んで他のために』のスローガンと「豊かな人生経験をもとに…社会に貢献することを目指し学び合う生涯学習の場」という言葉が心に響き入学を決意した。

門脇さん 3月に児童館を定年退職、9月の入学まで半年間の充電期間を経て、これまでの経験とは別の老人福祉の勉強が出来ればと、福祉コースを選び入学しました。

細野さん 開校間もないキャンパスを見学、貼り紙一つ無く、学生の存在さえ感じられないこの壁面を生き生きした姿に変えてみたいという意欲が湧いた。

宮城さん 仕事をしながらの忙しい毎日ではありましたが、1期生の親しい友人からシルバーカレッジへの入学を勧められ、2期生として入学しました。

豊田さん 新しい友と仲間を作り、生涯学習に役立つものと考え入学を希望し『再び学んだことを社会に還元する』このシルバーの教訓をもとに、歴史探訪で頑張ってみようと入学を決心した。

②ボランティア活動を始められた動機は？

宮城さん 大震災後にカレッジが救援物資の集積場となり、休校となり学校に来られた友人に声をかけ大久保や有馬口の老人ホームに楽器を積んで、音楽で訪問ボランティアをしたのがきっかけです。

豊田さん カレッジに入学して歴史探訪の会を結成してKSCの学生さんに歴史は魅力ある学習である事を知ってもらい！そんな思いで頑張ってきました。この実践の生甲斐が忘れられず、今まで続けている。

細野さん 年が明けるとあの大震災。カレッジに駆けつけクラスの安否確認など役に立つと思うことをやった。第1回の「この指とまれ」学生集会でボランティアセンター設立メンバーに加わったこと。

門脇さん 震災直後避難所への炊き出し、被災者の運動不足解消のお手伝いなど、皆さんが一日も早く元の生活に戻れるようにとの一心で頑張りました。

濱岡さん 平成13年、KSCの卒業研究で協力頂いた小学校から「伝承的な昔遊び」で授業への参加要請があり、卒業・在校生に呼びかけ28名が参加。（後のむかしあそび研究会）好評を得る。これが動因。

③15年以上も〈わ〉の会員・ボランティア活動を継続してこられたのは？

豊田さん 会員の皆様に、これ面白い歴史探訪やな！良くわかるな！よし次の会も参加するわ！…こうした実践活動が今も継続している原点。

細野さん いくつになっても「他のために」できることがあると…もう一つ、忘れてならないのは家庭が黙って見ていること。

門脇さん 現在も無理をしないで、楽しみながら継続。自分が精神的・肉体的に健全であること。相手を思いやる事！自分も楽しませて頂いている感謝の気持ちが大切！

濱岡さん 子らと遊び終わったあと『楽しかったよ、また来てね、きつとだよ』という声と笑顔。そして子らと童心に帰り遊ぶうちに、子らから若さと活力を頂いている事。この両者が継続の原動力となっている。

宮城さん 〈わ〉の活動を通じて、たとえ1年に1回でも『やあ一元気！』と仲間に会えるのが嬉しく楽しい。結局自分自身の健康増進にも繋がっているから、ボランティアは他人のためではなく、

自分の為になっている。

④〈わ〉本部に対する提言・期待等について

細野さん 部会・グループ活動に比べて地域活動への関心が低い。〈わ〉の会員は、もう少し地元の区会活動に関心を向けてもらいたい。本部は、部会は部会、区会は区会と、別々に考えるのでなく両者の連携と協業を積極的に進め、相乗効果を図るべきだろう。

宮城さん 本部活動も昔と異なり助成金の申請など大変だと思います。本部も組織が大きくなり、大変でしょうが、あまり無理をされませぬ様に！

豊田さん 〈わ〉も20年経つとその活動がマンネリズムになることが懸念されますが、皆さんの意見を持ち寄り、新たな取り組みにも積極的にチャレンジして欲しい。

門脇さん 私達が安心して活動できるのは本部の皆さんのお蔭と感謝しております。当方は現場で頑張りますので、後継者をしっかり育てて下さい。

濱岡さん 〈わ〉本部との相互理解を基盤にグループ活動を心掛けて来たので、大きな問題もなく、現時点では提言・期待等については特にない。

（福3）細野 恵久 	（生4）豊田 実 	（福4）濱岡 吉孝 
（音2）宮城 智子 	（福2）門脇 淳子 	

⑤カレッジの学生も含め後輩に対する助言・期待等について

門脇さん ボランティア先では様々なハプニングもありますが、「ああ楽しかったまた来てね」の言葉が貰える充実感と喜びが忘れられず、これまで続けてきました。皆様も経験を積み重ね頑張ってください。

細野さん 学生の地域交流グループ活動を区会に引き継ぎたい。しかし期待のグループリーダーに〈わ〉入会者が少ない。なぜなのか？

いまカレッジは「他のために」を学ぶ場から自分のための「カルチャー教室」に変わりかけているようだ。カレッジ当局にはクラス内はもとより、同一学年内やコースの先輩後輩間の繋がりを図ってほしい。「他との繋がり」が「他のために」の原点と思うからだ。

宮城さん 昔はグループ毎に動くことも集まることもし易かった！現在は孤の時代で集団行動が難しい時代？やはり仲間で動く方が、ボランティアも継続できるのでは？誰かがリーダー（旗振り役）をして行動しないと、継続は無理だと思います。

濱岡さん 在校生の〈こども文化〉の殆どの方が『むかしあそび研究会』に入会される。同じ方向性を持ち、在校生と卒業生が共に研修やボランティア活動をして、暖かい連環が育ち、心強く、互いに得る所大である。

豊田さん 歴史探訪の会を平成6年に立ち上げて、20数年になりますが常に言っていることは『継続は力なり、結果は宝なり、寛容は美德なり』をモットーに励んできました。

（編集 藤田健一）